

登録コード	E0100903	開講年度	2026					
授業科目	国語基礎C					担当教員	西 一夫 他	
英文授業名	Basic Japanese C					副担当	小林 比出代・藤原 崇雅・大井 和彦	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限		対象学生	2-4年生
講義室	教育N301講義室 教育図書2階講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					初等教育全般の言葉に基づく学習活動を担うために必要な知見を踏まえ、児童の幸せのために働くことへの意欲を高め、よりよい言語教育の実現を目指して日々の努力と研鑽を続けることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					小学校における国語科の授業を遂行するための基本的な領域（【知識及び技能】言葉の特徴や使い方に関する事項・情報の扱いに関する事項・我が国の言語文化、【話すこと・聞くこと】【書くこと】【読むこと】）における内容や構造を理解し、言語、文学、書写、さらには伝統的な言語文化等の専門的な内容や技能を具体的な方法で体験的に取得して実践場面で活用できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	初等教育の国語科での学習内容や実践的な学習活動について、以下の各領域を教員が分担して実施する。 1) 小学校学習指導要領国語科の概説と特徴の理解 2) 音声, 文法, 語彙, 文字表記を通して, 日本語に関する知識の習得 3) 発達段階に応じた文学作品受容の際の基本的読者反応の把握 4) 書写に関する知識及び実践活動を通じた技法の習得 5) 我が国の言語文化の概要と特質、授業実践に向けた教材研究							
(5)授業計画	第1回：ガイダンス, 小学校学習指導要領国語科の内容と構造（西） 我が国の言語文化（伝統的な言語文化）（西） 第2回：我が国の言語文化（言葉の由来や変化・読書）実践的な学習活動演習（西） 第3回：書写 「書写」の内容を考える／硬筆及び小筆の学習（小林） 第4回：書写 「書写」の授業を考える（小林） 第5回：書写 「書写」で求められる基礎技能（毛筆）（小林） 第6回：文学 動作化と期待の地平（低学年教材：「おおきなかぶ」「くじらぐも」など）（藤原） 第7回：文学 心情曲線と場面・人物（低学年教材：「お手紙」「スイミー」など）（藤原） 第8回：文学 場面絵カードと登場人物像（中学年教材：「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」など）（藤原） 第9回：文学 物語のSTEAM教育（中学年教材：「ごんぎつね」「スワンレイクのほとりで」など）（藤原） 「STEAM教育」対応の授業回 第10回：文学 音読・朗読と山場・情景（高学年教材：「大造じいさんとがん」「銀色の裏地」など）（藤原） 第11回：文学 パラテキストと空所（高学年教材：「やまなし」「海の命」など）（藤原） 第12回：言語 日本語の構造と言語感覚－音・語・意味のとらえ方－（大井） 第13回：言語 音声・文字・表記の関係－発音と書き表し方のズレから考える－（大井） 第14回：言語 言語の規範と教師の判断－正しさはどのように成立するか－（大井） 定期試験・授業アンケート 第1回の授業で詳細な日程を提示。（「書写」「書写」は集中授業となります。）							
(6)成績評価の方法	【各回の共通事項】35点 1. 授業の達成目標1の「言語教育の実現を目指して日々の努力と研鑽」に関する内容理解を測るため、毎回の授業で実施する授業の振り返り（eALPS）：20点 2. 授業の達成目標2の「基本的な領域」に関する内容理解を測るため、毎回の授業で実施する小テスト（eALPS）：15点 【各領域等での事項】65点 3. 授業の達成目標2の「内容や構造を理解」に関する内容理解を測るための筆記試験：10点 4. 授業の達成目標2の「専門的な内容」に関する内容理解を測るための筆記試験：20点 5. 授業の達成目標2の「専門的な技能」に関する内容理解を測るための書写に関する実技課題：10点 6. 授業の達成目標2の「具体的な方法で体験的に取得して実践場面で活用」に関する内容理解を測るための筆記試験：20点 7. 授業の達成目標2の「具体的な方法で体験的に取得して実践場面で活用」に関する理解を測るための書写に関する課題レポート5点 ・全体の得点割合は以下の通り。 毎回の振り返り（20点）・毎回の小テスト（15点）・筆記試験（50点）・実技課題（10点）・課題レポート（5点）：合計100点							

(7)成績評価の基準	秀：公共的使命感や倫理観に支えられた教育の専門家に求められる教養を高度に身につけている。また、授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：公共的使命感や倫理観に支えられた教育の専門家に求められる教養を正確に身につけている。また、授業内容を正確に理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：公共的使命感や倫理観に支えられた教育の専門家に求められる教養をおおよそ身につけている。また、授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：公共的使命感や倫理観に支えられた教育の専門家に求められる教養を一部身につけている。また、授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：公共的使命感や倫理観に支えられた教育の専門家に求められる教養を身につけていない。また、授業内容を理解しておらず、与えられた課題演習・実技課題に誠実に取り組んでおらず、努力の認められる活動成果を示していない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。
(8)事前事後学習の内容	事前学習：各領域で指示される事前課題を行ったり、参照資料を読んだりして授業にのぞむ。 事後学習：各回の授業で取り上げた内容を学習指導要領の記述と照らし合わせて学習領域や言語活動との関係を振り返り、国語科の授業担当者としての意識を高める。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(9)履修上の注意	1．書写 ・ については、休日の集中授業（日程については開講前にeALPS 掲示） 2．書写には書道道具を持参すること（道具については開講前にeALPSに指示） 3．e - A L P Sでの資料配付や授業資料の提供をおこなう 4．全ての授業ではPCを積極的に活用するので必ず持参すること
(10)質問，相談への対応及び連絡先	授業に関する質問や相談は以下の項目で各教員が対応する。 授業全体・学習指導要領：西一夫（nishika@shinshu-u.ac.jp） 我が国の言語文化：西一夫（nishika@shinshu-u.ac.jp） 書写領域：小林比出代（hideyokb@shinshu-u.ac.jp） 言語領域：大井和彦（kazuhiko_oi@shinshu-u.ac.jp） 文学領域：藤原崇雅（fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp）
【教科書】	『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社，2018，162円），その他，適宜プリントを配布。
【参考文献】	各回担当の教員から適宜紹介がある。